

## 病院の概要

- 病床数 700床
- 医師数（研修医を除く） 269名（うち指導医数 97名）
- 研修医数 1年目 12名 2年目 9名
- 研修医の主な出身大学 埼玉医科大学・香川大学・日本大学・東京医科大学・日本医科大学
- 診療科 脳脊髄腫瘍科 小児腫瘍科 小児外科 造血器腫瘍科  
婦人科腫瘍科 泌尿器腫瘍科 乳腺腫瘍科 皮膚腫瘍科  
骨軟部組織腫瘍科 頭頸部腫瘍科 形成外科  
原発不明・希少がん科 緩和医療科 精神腫瘍科 放射線腫瘍科 病理診断科 消化器内科 消化器外科 呼吸器内科  
呼吸器外科 心臓内科 不整脈科 心臓血管外科 小児心臓外科 小児心臓科 心臓リハビリテーション科 救命救急科  
総合診療・地域医療科 脳卒中内科 脳卒中外科 脳血管内治療科 小児救急科 画像診断科 核医学科  
運動・呼吸器リハビリテーション科 麻酔科 集中治療科
- 1日平均外来患者数 694.2名 ● 1日平均入院患者数 655.8名
- 主な認定施設 日本内科学会認定教育施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、  
日本脳神経外科学会専門医認定制度に基づいた研修プログラム認定、日本救急医学会救急科専門医指定施設、  
日本麻酔科学会医療法に基づく麻酔科標榜のための研修施設である麻酔科認定病院、  
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関



## 研修プログラムの特色

当院には、埼玉医科大学の3つの病院が近いことを生かし、将来、ジェネラルとしても、エキスパートとしても医療現場で活躍できるプログラムがあります。

- ◇3病院自由選択プログラム（定員14）は本学3病院のすべての診療科を研修医が自由に選択することができる、もっとも自由度が高いプログラムです。
- ◇研究マインド育成自由選択プログラム（定員3）は臨床研修と大学院を同時期に学べるプログラムで、研修開始時には大学院の入学試験に合格しておく必要があります。
- ◇特設外科系プログラム（定員3）は多彩な症例を通じて多くの手技を経験し、適切な判断ができる外科系医師を育成することを第1目標とするプログラムです。



## プログラム 例 埼玉医科大学3病院自由選択プログラム（募集定員14人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目▶	導入研修	内科					救急			選択必修		
2年目▶	地域医療	自由選択								調整月	自由選択	

- 導入研修：1年目の4月にオリエンテーションを兼ねて当院で行う。
- 選択必修：外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科より2科を選択して1か月ずつ計2か月間研修を行う。
- 自由選択：本学3病院および研修協力施設より選択できる。（最終月除く）
- 調整月：到達目標を達成するために充てる。（原則12月～翌年2月のうちの1か月間）
- 地域医療：1か月を週単位にて4週に分け、最大4施設、最小1施設を選択することができる。

その他 埼玉医科大学国際医療センター研究マインド育成自由選択プログラム（募集定員2人）

埼玉医科大学国際医療センター特設外科系プログラム（募集定員3人）

## 研修医の処遇

- 給与▶基本給25万円/月
- 諸手当▶日当直手当
- 保険▶健康保険：日本私立学校振興・共済事業団、年金：日本私立学校振興・共済事業団、雇用保険：加入、労災保険：加入、医師賠償保険：個人加入
- 勤務時間▶8時30分～17時30分
- 当直▶あり：4回/月（診療科により、多少異なります）
- 休暇▶9回/月（変形労働時間制）。有給休暇（1年次：10日 2年次：11日）
- 宿舎▶あり（月額2万円、光熱水費、駐車場代、リネンサービス込）
- その他▶白衣貸与（クリーニングは病院負担）

## 主な臨床研修協力病院・協力施設

- ・ 埼玉医科大学病院
  - ・ 埼玉医科大学総合医療センター
  - ・ 宮古島徳洲会病院
  - ・ 秩父病院
  - ・ シャローム病院
  - ・ 岡村記念クリニック
  - ・ 熊谷総合病院
  - ・ 行田総合病院
  - ・ 小川産婦人科・小児科
  - ・ 瀬戸病院
- など

## 当院のキーワード

### 当院での研修の魅力！

#### 魅力1：症例の質・量ともに抜群の研修環境

大病院のメリットと地域医療を担う病院のメリットの両方を受けながら、充実した指導陣、協力的なコメディカルスタッフなど、内科研修にとって大切な環境が揃っている中で研修ができます。

#### 魅力2：国内屈指のスペシャリスト集団

早い時期から多くの手術、多彩な手技が経験でき、適切な判断のできる外科医の育成を、病院全体として目指しています。専門医取得まで初期、後期一貫教育を行い、広い見識を得るための幅広いローテーションが可能です。

#### 魅力3：すべての救急を短期間で効率よく診ることができる

初期、二次、三次、そして集中治療室まですべての救急を網羅している医療機関は限られています。あらゆる救急を短期間で効率よく診ることができ、その経験と知識は今後の大きな糧となるはずです。

**内科、外科共に国内屈指の症例数があり、世界に引けを取らない最先端医療が整っていることが最大のポイントです！**



## 研修責任者から

当院は、がん、心臓病、脳卒中を含む救命救急に特化した病院であり、初期研修医とその後の後期研修医（シニアレジデント）の教育にも力を注いでいます。

将来、スーパードクターを目指す人、開業を考えている人、臨床のみならず研究分野でも活躍したい人、症例の多い病院で経験を積みたい人、学位取得を希望される人など…様々なニーズに応えられる研修環境が整っています。

それぞれの診療科が非常に高い専門性を有し、最先端の医療を提供しているのが当院の最大の特徴です。各診療科では自分の目標となるような医師がきっと見つかります。当院での研修が、皆さんの今後のキャリア形成の礎となるよう責任を持って支援いたします。



副院長、研修管理委員長  
**鈴木 孝明**

## 先輩研修医から

私が当院を研修病院として選んだ理由は、最先端の医療を学ぶことができること、そして研修体制が整っているからでした。日々の研修では、当院が担う地域の基幹病院としての役割を考え、患者さんの背景にも目を向けてそこに寄り添うことを心がけています。

各診療科の指導医・上級医の先生方は非常に教育熱心で、わからないことはどんなに忙しくても丁寧に解説してくれます。そして、週一回行われる研修医向けのセミナーでは、様々な分野の先生が臨床に則した講義をしてくれるのでとても勉強になっています。

普段の生活では、同期は出身大学に関わらず仲が良く、各々明確な目標や目的を持っていて、熱意があるためお互いに高めあえたり、大変な時は支えあったりして自然と良い関係が築けています。初期研修開始から1年が経過しようとしています、当院で研修することを決めてよかったと思っています。



研修医1年目  
**加藤 里絵**

## 女性医師支援コーナー

当院では、女性医師がキャリアを続けていける制度が充実しています。

医師の約1/3を女性が占める時代、その活躍を支援するため、産前・産後並びに育児休暇の取得後、一定の育児期間中は当直の免除や短時間勤務など柔軟に働くことが可能です。

また、院内託児所も整備されており、子供を預けながら臨床業務や研究に集中して取り組むことができます。

さらに、医師として働き続けたい女性をサポートする目的で女性医師就業継続支援窓口（医療人育成支援センター内）を設け、出産、育児、介護のために休業予定の医師に対して復職に必要な情報等の提供を行っています。



連絡先

## 埼玉医科大学国際医療センター

臨床研修センター

〒350-1298 日高市山根1397-1

TEL 042-984-0079(代表) FAX 042-984-0594

E-mail imckensh@saitama-med.ac.jp

URL <http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>

アクセス J R川越線・八高線 高麗川駅（路線バス約10分）  
東武越生線 東毛呂駅（路線バス約15分）

## 病院見学、その他イベント・説明会等の情報

病院見学は随時可能です。

当院所定の見学申込書に必要事項を記入のうえ、原則、見学希望日の2週間前までに臨床研修センターへE-mailでお申し込みください。見学希望日2週間前を過ぎた場合は、臨床研修センターへご相談ください。